

# 秋以降はこんな計画を!

夏の熱いコンクールが終った後、先生方は秋に向けてどのような計画を予定されているのでしょうか。発表会やステップの準備を始める、あるいは基礎固めに専念する、アンサンブルやコンチェルトに挑戦させる等、様々です。ここにそのアイデアの一例を紹介します。

## 月1回の鑑賞会

田中 京子先生(福岡)



私の教室では月1回、親同伴で鑑賞会を行っています。6年前からソルフェージュの一環として行っていますが、私達の地域はコンサートが少ないので喜ばれています。低学年は1時間、主にバレエなど身体全体の動きを視覚的に学ばせ、高学年は2時間でオーケストラ、室内楽、オペラなどを鑑賞します。教材は購入・レンタルなどして自分で揃えています。14畳のレッスン室にスピーカー、オーディオを設置していますが、教会の音、1000人収容ホールの音など、音響効果を好みに応じて変えられる装置を取り入れました。非常に臨場感が出て好評です。

入賞者ビデオも年数回見て勉強しています。年齢の近い方の演奏を、より親近感を持って真剣な様子で鑑賞しています。その後一人ずつ感想を述べ、「音色が美しい、タッチが素晴らしい、表現の幅が広い、呼吸が深い、よく伝わってくる」等、様々な意見が出ます。それぞれ今の自分にとって足りないところが分かっているようで、今後の励みになっていると実感しています。決して真似ではなく、学び取ることを大切にしています。

例えばメヌエット等のダンスステップや、フランス組曲の中にあるアルマンドやサラバンドがどの

ような種類のダンスなのか、こういった背景を知ることによって、楽曲理解が深まります。またフレーズの最後

をどう処理したらよいかなど、具体的なイメージトレーニングもできます。弾くばかりが勉強ではないと思っていますので、1時間のピアノレッスンの残り10分を、必要に応じて鑑賞にすることもあります。

## 生徒全員でポップス

西野 真琴先生(鳥取)



「コンペが終わったら、ジャズやポップスをみんなで弾いてみよう」と話し合っています。最近の子供達は皆忙しく、また音楽・生活環境も多様化していますので、そうした生徒の日常生活に目線を移し、レッスンに新鮮な風を通したいと思いついたものです。

私自身はここ10数年クラシックを中心に指導しておりますが、ともすればマジメにやる程レッスンそのものが固定化し、「自由」から遠ざかってしまうように感じていました。そんな時かつての作曲やバンド活動を思い起こし、ジャンルをクロスオーバーすることで、それぞれの価値観を認識できるような指導ができれば、と思ったのがきっかけです。

クラシックしか弾いたことがない子にとっては、ジャズやポップスの「ノリ」を掴むのは難しいと思いますが、秋頃みんなでジャズ&ポップスのミニコンサートを開くことを目標に、レッスンの中で新鮮な発見をしたいと思っています。

私がピアノ指導を始めて20数年の間にも、生徒の傾向は刻々と変化しています。かつてに比べ、生徒自身の内的なエネルギーを感じにくく、指先までの力強い思いや、生き生きした自発性



◀田中京子先生のレッスン室

が伝わってくるものが少なくなりました。それは指導する側にも責任があるかもしれません。先生が一つの枠に固執してしまうことで、無意識的に子供に何かを強いてしまうことになりかねません。常に視野を広く持ち、精神を柔軟で開かれた状態にしておきたい。生徒さんと私とが音楽を共に楽しむ仲間でありたいと願っています。

## エチュード・ステップに挑戦

川岡 優子先生(広島)



10月下旬にエチュード・ステップを予定しています。ツェルニーやエチュード等は、普段なかなか人前で弾く機会がありません。けれど一つの曲として綺麗に弾きこむことも大切だと思います。そこで昨年秋のステップは、私の生徒は全員必ずエチュードを弾くようにしました。

小さい頃ですとある程度感性があれば曲が弾けますが、中級くらいになると手ができていない子は、壁に突き当たります。そこでこのステップに参加することで、骨格作りを意識的に行うようにしたのです。「スケールをより美しく」「アルペジオをスムーズに弾く」「トリルを上手に入れる」「左手を強くする」等、分かりやすい目標設定ができるようになりました。例えばツェルニー30番でも、そこで求められているテクニックの意味や音楽的な面を考えながら弾いてくれるようになったと思います。「基礎作り」「弱点強化」のステップとして、音楽大学副科でピアノを習っている生徒や音大入試を控えている子も受けると、張り切っております。

## 学年別に同じ作曲家に取り組む

真宮 恵美先生(神奈川)

コンペ期間中から、「コンペが終わったら発表会に向けて頑張りましょう」とインプットしておきま

す。そうしますとコンペ後は、モチベーションを維持しながら次の目標に向かうことができます

秋は学年毎に、同じ作曲家の異なる作品をプログラミングして発表会開催する予定です。小学生はバッハのインベンション、中学生はシューマンやメンデルスゾーン等のロマン派を中心に、また中3の普通高校を受験する生徒はショパンにしています。憧れのショパンを発表会で演奏できるということで、大変な受験期をピアノと共に乗り越えて欲しいという気持ちから企画しました。また母親との連弾やコンチェルトも盛り込みます。コンペで連弾の楽しさを知った生徒や保護者より、「次の演奏会は4手、6手、8手を」という声が相次いでいます。

## ミュージックキャンプ開催

石井 之枝先生(茨城)



2年に一度、8月下旬に「ミュージックキャンプ」を企画しています。近所の公営施設を借し切り、1泊2日で音楽体験をさせるというものです。

普段のレッスンでミュージックデータを使用したアンサンブルをやりますが、他の楽器を感覚として捉えきれてない部分がありました。そこで、他楽器を実際に体感してもらう為、このワークショップを企画しました。初回はトランペット・ドラム・フルート・和太鼓に挑戦、2回目は全員和太鼓を2曲ずつ完成させ、いずれも2日目にお迎えにきた保護者の方々の前で、終了コンサートをしました。生徒は初めての楽器に触れるという新鮮な体験と、いつもはなかなか話す機会のない教室の他の生徒と、2日間一緒に生活したことで、「自信」と「和の心」を身につけたようです。その後、嬉々としてレッスンに来てくれています。楽器の調達や、各楽器指導者の手配など大掛りで大変でしたが、また次回も企画する予定です。



▶ミュージックキャンプ2002 和太鼓

## 理論検定を受験、 海外ネットワーク も積極活用



吉岡 明代先生(徳島)

実技だけではなく、理論もきちんと勉強する必要がありますので、毎年春に英国王立音楽検定(アソシエイト・ボード)を受けさせています。昨年末には勉強会を開催し、指導者6名、生徒55名が参加しました。理論の勉強をすることで、音楽の基礎知識が深まり、ピアノ好きの子が増えたと思います。また世界的に認定されている試験ということで、生徒の自信と誇りにもつながっています。

また教室に海外から演奏家や指揮者をお呼びし、演奏会を行うこともあります。かつて電子オケ



▲英国王立音楽検定の勉強会

でコンチェルト演奏会を開催した折、英国人指揮者をお招きして、指揮をして頂いたことがありました。今後とも海外ネットワークを広く持ち、外国に子供達を連れて演奏する機会等も企画したいと思います。

## レッスン用教具・ 教材を製作



宮村 京子先生(宮崎)

コンペ後に限らず、日々のレッスンの中で「こういう教具があったらいいな」と思うものを作っています。最近作成したのは、指マット、音名・階名マット、教え玉、けんぱんシート、中でも最も人気があるのは「5度圏ルーレット」です。くるくる回しながら自然に調名や音階などの基礎知識を身に付けることができますので、幼児から受験生まで重宝しています。規則が理解できると、音楽に対する興味も深まります。最近小さい生徒は、レッスンに来ると



◀5度圏ルーレット

真っ先にルーレットに向かうようになりました。

## 生徒全員にアンサンブル 体験

伊藤 みち先生(愛知)

毎年1月教室で「お弾き初め会」をしています。それは一人5曲、生徒自身に選曲(分野は問わず)、練習、プログラミングと全て任せての、教室での小コンサートです。これまでポップス、弾き語り、リコーダー演奏等、様々なプログラムが登場しましたが、今年はミュージックデータを用いてコンチェルト風にアンサンブル曲を1、2曲、どの子にもプログラムに入れるよう提案する予定です。小さい生徒のレッスンではバスティン・メソッドの中で日常的にやっていますが、今回は大きい生徒も含めて全員に挑戦してもらおうと思っています。9月からは生徒達と共に、アンサンブルする曲を決める楽しい作業が始まります。最新のミュージックデータが出ていないか、ますますチェックが欠かせません。

## 文化創造塾を開催

酒井 郁江先生(福井)

地域の文化センターで「文化創造塾」というワークショップを立ち上げ、音楽監督を担当しております。来年3月に「サウンド・オブ・ミュージック」の公演を予定しており、それまでにミュージック隊とアート隊(舞台美術)が、各々月1回ワークショップを行います。これからピアノやギター、リコーダーの出演者や曲目等を順次決める予定です。この一連のワークショップは「家族」をテーマにしたもので、ファミリーで出演して頂くよう呼びかけております。ピアノは私の教室の生徒も出演する予定ですが、大好きなサウンド・オブ・ミュージックの世界を自分たちの手で創り出せることを、今から楽しみにしている様子です。

## エピローグにかえて さらに充実したシーズンを過ごすために

モチベーションの維持・向上には、明確なビジョンと計画が不可欠です。次のステップが提示されれば、それに向けて目標が定められ、一步を踏み出すきっかけになります。教室全体がさらに活性化するようにご参考にして頂けたら幸いです。

### <ステップ・発表会・他コンクールに向けて準備>

- 発表会を2年に一度王子ホールで開催、また代表をさせて頂いている、スタインウェイ関東ステーションのステップ(11月・6月)に参加させます。(渡部由記子先生・千葉県)
- 10月トークコンサート、12月ステップ・発表会、1月入賞者コンサートの予定です。(望月玲子先生・長野県)
- 教室全体では、クリスマス会、春に発表会、希望者はステップ、検定を受けさせます(井上朗子先生・大阪府)
- ステップ、他コンクール、コンサートホールでの演奏、生徒自身が弾きたい曲で自由に。(菊地昭子先生・栃木県)
- 新しい生徒の募集とともに、ステップへの参加をひとりでも多く勧めます。(長谷川美智子先生・福岡県)
- 別のコンクールへの挑戦や、ステップなどへの積極的な参加、また、生徒達との交流を深める為に、色々な会を開催する予定です。(佐々木恵子先生・千葉県)
- 今までと同様、コンペを目標にさせステップ参加をできるだけするようアドバイスし、演奏向上をはかります。生徒に目標を持たせ、ほんの少しの向上を積極的にほめて、意欲を維持させるよう、努力したいと思っています。(北島依子先生・大阪府)
- 11月にステップ参加、12月クリスマスコンサート(ピアノトリオ等、他楽器とのアンサンブルを計画中)、3月ピアノコンサート(ソロは短めの曲、ピアノトリオ、他楽器のアンサンブル)を計画しています。(田中みゆき先生・青森県)
- 地元で開催されるコンクールや、ピティナ・ピアノステップに参加。年末はクリスマスおさらい会。来春は発表会を予定しています。(漆原好美先生・宮崎県) ほか

### <その他>

- 慰安旅行や、他の先生のレッスンを見学させていただく予定です。(三好のび子先生・静岡県)
- 教室の模様替えで心機一転したいと思います。(池田玲子

先生・兵庫県)

- 5月よりレッスンをなるべくドイツ語で行い、12月の外人講師によるマスタークラスに向け、通訳無しでレッスンを受けられるようにしています。弾き方だけでなく、西洋音楽の根底にある精神性を理解する為に、大切なことと思います。(大場多恵子先生・静岡県)
- 私の教室から育った生徒で、今年音大ピアノ科を卒業した人のソロリサイタルを、私の教室主催で手づくりでいたします。チケットのもぎりは生徒達がしたり、チラシやチケットも手づくりで作成します。なるべくお金をかけないで、ソロリサイタルを経験させてやりたいと思い、今年からスタートします。(中田元子先生・大阪府)
- 即興演奏や創作研究により力を入れたいと思います。(坂田恵子先生・静岡県)
- オープンクラスとして、グルーブレッスンを公開します。(八木まゆみ先生・鹿児島県)
- 昨年、ピティナ参加者で秋に食事会をしたところ、大変楽しかったらしく、今年も計画しています。(竹本喜代美先生・愛媛県)
- 何よりも毎回のレッスンを大切にしたいです。(善見伊岐先生・兵庫県)
- コンクールだけのためのピアノにならないよう、コンクールオフ期間はなるべくいろいろなコンサートにふれるチャンスを増すべく、積極的に聴きにいけるチャンスを増やしていきたいと思っています。(横山朋子先生・栃木県)
- 3月にコンサート、5月に教室の発表会を終えたばかりなので、コンペが終わったあとは練習曲を中心に進度をすすめ、基礎練習を徹底させようと思います。(青木香澄先生・宮崎県)
- 子供だけではなく、広く生涯学習の幅を計画しております。一生ピアノと付き合える環境を多く提供できればと、大人のピアノ愛好家の方へ呼びかけています。(俣野昌子先生・東京都)
- 大学入試の人のための研究会に子供たちも参加させます。(椿久美子先生・滋賀県) ほか

### ●生徒に取り組みせたい事

98 基礎の練習

74 発表会に向けての準備

71 新しい曲の挑戦

68 別のコンクールへの参加

44 ピティナ・ピアノステップへの参加

44 アンサンブル・デュオの挑戦

23 その他

「過去ピティナ・ピアノコンペティションに延べ100名以上を参加させたピティナ会員」349名の先生方にアンケート調査を実施致しました。このグラフは128通の返信をもとに集計した結果です。ご協力頂きました先生方、ありがとうございました。なおアンケートで協力者一覧は、本誌91ページに掲載させて頂きました。

### ●指導者が取り組みたい事

その他 35

教室広報ツールの制作 9

国内外への研修旅行 23

環境整備 29

保護者との懇親会 31

コンサート鑑賞 80

講座への参加 81